

# News

## 欧州医療・介護事情視察旅行を実施して

京都私立病院協会は創立 50 周年記念事業として、京都府病院協同組合と共催で 9 月 14 日（日）～ 21 日（日）の 8 日間の日程で、欧州医療・介護事情視察団を清水鴻一郎会長のもと総勢 23 名にて編成し、スペイン及びフランスの医療ならびに介護事情を視察した。

8 日間天候にも恵まれ、途中スペインからフランスへの移動手段であったエールフランス航空がストライキで欠航となり、急遽 TGV（高速列車）にて移動するなどのハプニングはあったものの、総勢 23 名で充実したプログラムの視察を終え無事帰国した。

### 欧州医療・介護事情視察旅行に参加して（看護師の立場から）

西京病院 看護部長 須川 裕子

京都私立病院協会創立 50 周年記念・京都府病院協同組合共催の欧州医療・介護事情視察旅行が、平成 26 年 9 月 14 日（日曜日）～ 21 日（日曜日）の 8 日間の日程で、当協会清水鴻一郎会長以下 23 名で、スペイン・フランスの医療介護事情視察に行きました。

#### 9 月 14 日（日曜日） 1 日目

伊丹空港 8 時に集合し、清水鴻一郎会長以下 23 名の簡単な自己紹介をした後、伊丹空港から羽田空港に到着し、結団式が行われました。清水会長から挨拶で今回の旅行のプランに清水紘監事が大変ご尽力された事などの紹介があり、続いて添乗員より日本と違ってスリが大変多い国なので、カバンの持ち方等の注意を受けました。その後ミュンヘン空港で乗り継ぎ、バルセロナ空港に到着、23 時（日本時間の午前 6 時）によりやくバルセロナのホテルに到着しました。



#### 9 月 15 日（月曜日） 2 日目

午前中、市内視察としてグエル公園・サグラダファミリアに行きました。サグラダファミリアは、工事中とは言え、やはり世界遺産の建物で大変感動しました。その後バスからランブラス通り・グラシア通りの街並みを見て、午後からは自由視察となりました。



#### 9 月 16 日（火曜日） 3 日目

午前中、バルセロナの高級住宅街にある SAR QUAVITAE（高齢者施設）に公式視察に行きました。日本でいう有料老人ホームをイメージしたところですが、日本より少し安価なよ

うでした。

午後からは、SANT PAU 病院を公式視察しました。ここはヨーロッパの中で一番古い病院で、1902年～1930年にかけて建設されたカタルーニャ・モダニズムを代表する建築だそうです。1930年に正式に開院となり、1997年には世界遺産に登録されました。実際に診療している病院は別棟に建設されています。世界遺産のSANT PAU 病院のカフェテリアで遅い昼食をとりました。スペインではワインが水代わりに出され、病院食にもワインがでるようです。

### 9月17日（水曜日） 4日目

スペインのバルセロナからフランスのパリに行くために空港に行くのかと思ったら、エールフランスがストライキをしている為、急遽列車で行くことになりました。しかし、全員のチケットが取れず、4名が他社の飛行機、残りは列車に分かれて行くことになりました。飛行機は約2時間ですが、列車は6時間かかりました。そのため予定されていたシャンゼリゼ通りや凱旋門、エッフェル塔は車中からの見学となりました。



### 9月18日（木曜日） 5日目

公式視察に向かう途中、今回パリでの病院視察のコーディネーター及び通訳をお願いしている元アメリカン・ホスピタル・オブ・パリ、英・仏・日語医療通訳で日本医師会総合政策研究機構フランス駐在研究員の奥田七峰子さんに、フランスの医療制度の概要についてバスの中で説明していただき、フランスの医療事情がよくわかりました。

#### フランス医療制度

人口 6582 万人で日本人口の半分。

平均寿命 女性 84.8 歳と世界第2位（日本が第1位）

男性 78.4 歳

65 歳以上高齢者人口 1184 万人（16.5%）

少子化対策は進んでいるそうです。

<医師数> 21 万 5865 人

<薬剤師数> 7 万 3892 人

<看護師数> 49 万 1100 人

\*最近の大きな医療政策改定

2004 年	かかりつけ医登録義務（16 歳以上）
2008 年	新規開業看護師への地域制限
2009 年	非かかりつけ医償還引き下げ

\*消費税率 一般商品 19.6%

保険薬 2.1%

非保険薬 5.5%（介護用品、食品、本等）

午前中は、「アバダンクス高齢者総合センター」へ公式視察しました。

フランスには、『PASA』というアルツハイマー専門部署があり、フランス全国で300か所あるそうです。その一つがここアバダンクス高齢者総合センターにありました。アルツハイマーの患者の家族を支援するのがメインです。40人のアルツハイマー病棟では、プロトコルがあり問題行動が



あっても生活リズムを整える事で、鎮静剤や抗精神薬は使用されないそうです。実際に食事時間に見学に行き、みなさま穏やかな表情で食事されていました。ここでも食事にワインが出されていました。

午後からは、赤十字アンリ・ドゥナン病院を視察しました。急性期病院としてスタートしましたが、2006年からは、完全に高齢者の為のDPC病院として診療がされており、病床数は158床で、内訳は以下の通りです。昨年は赤字だそうですが、今年の急性期高齢科の稼働率が85%から90%の目標に達する予定なので黒字になるそうです。

病棟	病床数	在院日数	平均年齢	稼働率
急性期高齢科	24床	10日	88歳	85%
リハビリ高齢科	56床	45日	88歳	95%
長期療養型	78床	2年半	90歳	98%

※長期療養型：ほとんどが死亡退院

医療機具は、CT1台、レントゲン3台、骨密度測定器1台、エコー2台、心エコー1台、ホルター心電図1台等。MRIはないそうです。

職員数は114名で内訳は

- 医師 主任医師1名  
老年科専門7名（内2名はバイト）  
心臓内科医2名（常勤換算1名）
- 看護師 看護部長を含め管理職が3名  
看護師は常勤換算22.5名  
12時間の2交代制で、夜勤専従が7.5名
- 看護助手 50名

その他の職種

管理栄養士1名、レクリエーション科1名、作業療法士1名、理学療法士3名、心理士1名、車椅子移送士2名（日本にはない職種で、移送のみされる方だそうです）その他職員等。

外科的な治療はなく、内科的な治療のみ診療されているそうです。基本は在宅復帰。高齢者に特化した病院なので、日本と同じく認知症の方、徘徊される方、骨折される方がおられるとの事ですが、家族さんに対して病状説明などがしっかりされているので、年間20件ほどの苦情はありますが、訴訟はまったくないとの事でした。認知症の方に対して、日中は自由にされていますが、夜間はベッドのシーツを改良した抑制らしきものがあり、上半身は自由に動き、寝返りも自由にできますが、ベッドから離れる事ができないようになっていました。このシーツらしきもので休んでいただくには家族さんの同意を得ているとの事でした。実際に参加者がシーツを体験されましたが抑制された感はほとんどないとのことでした。

看護師の夜勤が12時間交代ですでに実施されていることに、羨ましいと思いました。

日本の看護師は16時間がまだまだ多い為、早く12時間になるようにしていきたいと思いました。また看護助手が患者さんに、ネイルやハンドマッサージが実施されており、穏やかに入院生活を送



られていることが実感できました。

夕食は、京都府病院協同組合主催のフェアウェルパーティーが催されました。二つ星の「ミッシェルロスタン」というお店でフランス料理をいただきました。晚餐用の服装でやや緊張しましたが、おいしいワインをいただき会話も弾み、心地よいディナーの時間となりました。

### 9月19日（金曜日） 6日目

午前中の市内視察では、エッフェル塔の見える公園でみんなで写真を取り、その後リュクサンブール公園で自由の女神像などを見学し、有料トイレ（50セント）の経験もしました（有料だけあり掃除は行き届いていました）。

午後からは、自由視察となりました。夕食後はリドに行き、最後のパリを満喫しました。

### 9月20日（土曜日） 7日目

出発までの時間は、皆様思い思いに行動され、お土産をたくさん買っておられたようです。パリからフランクフルトへ、そして帰りは長い飛行時間が短く感じ（疲れて熟睡していたせい）ながら、羽田空港に帰ってきました。羽田空港で、久野成人副会長より無事全員が帰国した事等の挨拶があり、伊丹空港でそれぞれ解散となりました。



### 終わりに

スペイン、フランスの医療・介護の公式視察を終え、日本との違いなど、大変意味深い研修となりました。2025年に向かい、今後病院の進む方向が、急性期なのか、回復期なのか、慢性期なのか、今後の医療情勢をしっかりと見据えていきたいと思いました。

最後にこのような研修の機会を与えていただいた京都私立病院協会、医療法人同仁会理事長をはじめ職員の皆様、今回の研修でお世話になったすべての方々に心より感謝申し上げます。

## 欧州医療・介護事情視察旅行に参加して（DRの立場から）

富田病院 理事長 富田 哲也

日本の超高齢化に伴う医療費、介護費増大への対策として日本は以前から介護保険制度、DPCなど欧米の医療・介護の制度の一部を取り入れてきました。今後さらに“欧米化”を進めていくと思われませんが、すでに実践しているスペイン、フランスの医療・介護施設を見学してきましたのでその一端を垣間みただけで正確ではない所もあるかもしれませんが、ご報告と私的な印象を述べたいと思います。

フランスもすでに超高齢化がすすみ65歳以上が人口の16.5%で平均寿命は男性78.4歳、女性84.8歳で日本と似ています。一方特筆すべきは出生率が2.0であるとの事。詳しい説明はありませんでしたが移民の増加やその家族の増加、様々な結婚形態や育児体制の支援の結果との事です。

介護保険に相当する介護手当が要介護度を6段階にわけ所得に応じた自己負担額があり在宅、及

び施設入所の介護サービスを受けているとの事で日本ときわめて類似した制度でしたが日本が参考にして取り入れた制度だからと思われました。

医療については急性期病院、亜急性期病院、慢性期病院が明確にわかれ、日本のように1つの病院の中に急性期と慢性期が混在する形態はあまりなさそうでした。これは私立病院が少なく公立病院が多い事で政策的に進めやすかったからと推定されました。

医師の地域の偏在は日本と同様にあるが診療科の偏在はないとの事。診療科の定員数が毎年新たに決まっていて、成績順に採用されるのでDRの成績によっては希望の診療科に行けないとの事でした。これはおそらく日本でも近い将来採用されそうな印象を持ちました。

2008年よりフランスではかかりつけ医登録義務が16歳以上の全国民に義務付けられました。必ずかかりつけ医を通して病院に紹介される事になり、いきなり病院に受診すると自己負担が3割から7割に跳ね上がる制度になっているとの事でした。

フランスで訪問した赤十字アンリ・ジュナン病院は亜急性期病院で日本の日赤病院とは全く違う落ち着いた雰囲気でしたが、ほとんどすべて個室なのに個室料は問題なく払ってもらっているとの事。公的社会保険の他に半強制的な民間保険にほとんどの人が加入していて自己負担の医療費を補っているとの事でした。

フランスでは医師だけでなく看護師、リハビリ専門職、助産師なども開業できるようにしたとの事です。医師の少ない僻地医療を支える役目を期待しているとの事でした。

医薬品は抗がん剤など生命を左右する重要な薬は自己負担なしですが、一般的な薬は自己負担35%で全医薬品の75%を占めていて、鉄剤など軽微な疾病に対する自己負担は65%、生活改善薬は自己負担100%との事でした。

消費税については、フランスでは一般商品は19.6%ですが、保険薬は2.1%、非保険薬（介護用品、食品、本）は5.5%との事でした。

CTなど高額医療機器は病院が申請を出して中央審査で許可を得ないと買えないとの事でした。これも医療費を抑えるためと思われる。

フランスでは、パリ市の隣のブローニュ市にある高齢者介護住宅施設と病院が同居する珍しい公立の施設を見学しました。

認知症の老人も多いのですが認知症の程度によって3つの病棟に振り分けていました。すべて広い個室で病棟も閉鎖病棟なので抑制せず薬もあまり使わず夜間徘徊も自由にしてもらっているとの事でした。ベッド柵があると、乗り超えて危険なのでつけないとの事で夜間はベッドの高さを一番低くし、また、床が柔らかくなっていてベッドから落ちてても骨折しにくいとの事でした。認知症病棟の昼食に赤ワインが当然のようにほぼ全員に配られているのには驚きました。



次に急性期病院から高齢者主体の亜急性期病院に転換された160床の赤十字アンリ・ジュナン病院を見学しました。高齢者の在宅からの点滴などが主体の急性期病床も24床ありましたがそれ以外はリハビリなどの亜急性期病床でした。脳血管障害発症時は脳血管専門病院、重症心臓病は心臓センターなど別の急性期病院に送るとの事でした。認知症の患者さんが多いとの事で、ほぼすべて個室なので身体抑制しないで自由に動いてもらっているとの事でした。腕のマッサージなどスキンケア、スキンシップを認知症の患者に行いリラックスさせて問題行動を抑えるとの事で、日本の化粧品

が使用されていました。手をしばると興奮するので使わず、どうしても動きを抑える場合は「パジャマシート」というベッドのシートにチャックがついていて体全体はシートの中にあり、手と顔だけがシートの外にでて、体や足はシートの中で自由に動けるので患者が興奮しにくいとの事でした。

スペインにおいても高齢化が進んでいるとの事でした。

8割が公的病院、2割が私立病院で以前は医療費が無料であったが今は収入により自己負担が変わるようになったとの事でした。

見学したサンパウ病院は1900年頃の古い建物が世界遺産になっている非常に美しい建物で、その横に新しい近代的な病院があり最新設備が整っていました。

フランスもスペインも介護施設は広大な敷地に大きな個室と共有スペースがあり、庭があったりそこで野菜を栽培したりとうらやましい環境でした。

なおスペインのバルセロナもフランスのパリも観光地で地震がないので街全体が200年ぐらいの古い文化的建物が多く残り、街並みが統一されて美しいのに驚きました。建物の外観は変えずに中身だけ改築している事が多く京都も観光地域は見習わないといけないなと思いました。

